

P.1

# アレルギー緊急時対応マニュアル

## 対応の流れと役割分担

**よくある訴え**  
 「気持ち悪い」  
 「のどがへん」  
 「お腹が痛い」  
 「息が苦しい」  
 「かゆい」

### 子どもに異変？

発見者

リーダー代行

- 場所の確保
- 人の確保

- アレルギーの可能性をまず考える
- 原因・責任追及よりまず行動！
- 子どもから目を離さない
- 可能なら保健室へ
- 移動は、車椅子・担架（歩く・走るは危険）
- 症状が強ければ、その場で対応する決断を

**3人以上の教職員で対応**

#### 連絡役

- 管理職を呼ぶ
- 救急車を要請（P.4参照）
- 保護者に連絡
- さらに人を集めること
- 救急車到着後の誘導
- 他の子の対応

#### 校長・教頭

- 現場のリーダーとなる
- 対応について指示・判断
- 保護者への状況説明

- 養護教諭が到着したら、観察役を交代する
- 管理職が到着したら、リーダーを交代する

#### 観察役

- 発見者又は養護教諭
- 症状の観察
- 緊急性の判断
- 子どもに声をかけ続ける
- 処置の必要性を判断

#### 準備役

- 「個別対応マニュアル」
- エピペン®
- 緊急時薬
- AED
- その他の必要物品
- 記録

飲料水、コップ  
洗面器、濡れタオル

本人の緊急時薬や連絡先は、「緊急時個別対応マニュアル」参照

#### 観察と判断 P.2

代表的な皮膚症状

じんま疹



発赤・紅斑



浮腫



#### 緊急性の高いアレルギー症状 P.2

YES

どの教職員が行ってもよい  
エピペン®注射 P.3

#### 処置 P.3

#### 心肺停止状態に陥ったら、蘇生 P.4

#### 搬送 P.4

詳しい説明は、「食物アレルギー対応の手引き」を参照のこと

# 緊急時個別対応マニュアル

作成日:

年 月 日

年 組 氏名:

アレルゲン食品:

## ◎特記事項

## ●緊急時薬 (保管場所 )

分類	薬剤名	使うべき症状	使い方
抗ヒスタミン薬		じんま疹、かゆみ、紅斑	内服
ステロイド		症状が続く時	内服
気管支拡張薬		咳、ゼイゼイ、息苦しさ	内服・吸入

エピペン®

あり (保管場所 )

)・保護者所持・処方なし

連絡先	保護者	□ 携帯・自宅・職場 氏名	(続柄 )
		□ 携帯・自宅・職場 氏名	(続柄 )
医療機関	□ 病院名	診療科(医師)名	
	□ 病院名	診療科(医師)名	

## 5分ごとに症状チェック

## 全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈を触れにくい、または不規則
- 唇や爪が青白い

## 呼吸器の症状

- のどや胸が絞め付けられる
- 声がかずれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

 数回の軽い咳

## 消化器の症状

- 持続する強い(がまんできない)おなかの痛み
- 繰り返し吐き続ける

- 中等度のおなかの痛み
- 1~2回のおう吐
- 1~2回の下痢

- 軽いおなかの痛み(がまんできる)
- 吐き気

## 目・口・鼻・顔面の症状

- 顔全体の腫れ
- まぶたの腫れ

- 目のかゆみ、充血
- 口の中の違和感、唇の腫れ
- くしゃみ、鼻水、鼻づまり

## 皮膚の症状

上記の症状が  
1つでもあてはまる場合

- 強いかゆみ
- 全身に広がるじんま疹
- 全身が真っ赤

- 軽度のかゆみ
- 数個のじんま疹
- 部分的な赤み

- ① エピペン®使用
- ② 救急車要請
- ③ ショック体位
- ④ 心肺停止? → 蘇生開始

- ① 保健室へ運ぶ(歩かせない)
- ② 緊急時薬使用
- ③ エピペン®準備
- ④ 医療機関へ(救急車考慮)

1つでもあてはまる場合

- ① 保健室で経過観察
- ② 緊急時薬使用
- ③ 保護者に連絡

# エピペン® 使用の手順

子どもに声をかけながら、できる限り複数の教職員で対応する。

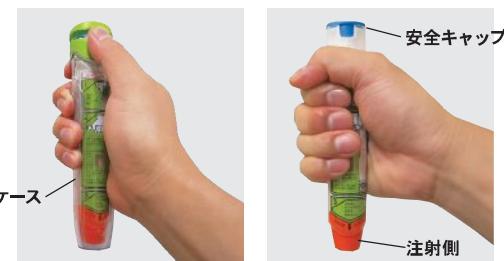
## ① 注射ができる体勢を整える

- 仰向けに寝かせる
- 自分は、子どもの脇に座る
- 手足が動かないように押さえる



## ② エピペン®をケースから取り出して、利き手で握る

- オレンジ先端が注射側、青色が安全キャップ
- 利き手に「グー」で握る
- 握ったら、できる限り持ち替えない



## ③ 注射部位を決めてから、安全キャップを引き抜く

- 自分の位置と反対側の太ももが打ちやすい
- 注射部位は、太もも前外側、足の付け根と膝の中央
- ズボンを脱がせる必要はない
- ポケット内のものに当たらないよう注意
- 青い安全キャップを、真っ直ぐ引き抜く



## ④ 太ももに注射する

- オレンジ色の先端を目標位置に軽くあてる
- そのまま垂直にグッと押しつける
- “パン！”と音がしたら押しあてたまま5秒間待つ



## ⑤ 注射完了の確認

- エピペン®を太ももからゆっくり離す
- オレンジ色のニードルカバーが伸びていれば注射完了
- 伸びていなければ、③に戻る
- 使用後のエピペン®は、病院に持っていく



## ⑥ 観察と記録

- 注射部位は、軽く揉む
- 注射した時間を記録
- 症状をよく観察する(分単位で変化する)

**効果は1~2分で出現し、15~20分持続する**

詳しい説明は、「食物アレルギー対応の手引き」を参照のこと

# 心肺蘇生とAEDの手順

## 1 反応の確認

反応がない

- 肩を叩いて大声で呼びかける

同時に

## 2 救急要請 119番

- AEDの手配
- 人を集め

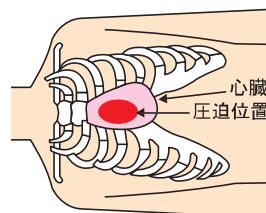
## 3 呼吸の確認

普段通りの呼吸をしていない

- 胸とお腹の動きを見る
- 10秒以内に判断

## 4 胸骨圧迫

必ず



## 人工呼吸 可能なら

- 胸の真ん中を両手で圧迫
- 強く(胸の厚さの約1/3)
- 速く(100回/分)
- 絶え間なく(中断は最小限に)



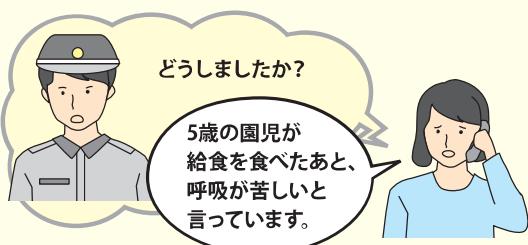
離れて下さい。

## 5 AED

- 2人以上で対応できれば実施
- 胸骨圧迫30回+人工呼吸2回
- 鼻をつまんで、下顎挙上
- 約1秒で胸が上がる程度に吹き込む



## 救急車の要請 119番通報



※生徒の様子を見ながら救急隊と常に連絡が取れるよう、自分の携帯番号を伝えて、すぐ受信できるようにしておく

### ○伝えること

- アナフィラキシーで救急要請であること
- 学校名、電話番号、学校の住所
- 児童生徒の名前、性別、年齢
- 誤食したもの、現在の症状
- エピペン®の有無、使用の有無
- 自分(通報者)の名前、携帯電話\*

- 救急隊員を誘導する職員は、校門前で待機する

本マニュアルは、名古屋市教育委員会「食物アレルギー対応の手引き」(2013年12月発行)を補完するものです。  
また、各児童生徒の情報を書き込んだ「緊急時個別対応マニュアル」とセットで使用します。

「手引き」及びこの「マニュアル」は、「[名古屋市公式ホームページ](http://www.city.nagoya.jp/)」<http://www.city.nagoya.jp/>からダウンロードできます。  
引用・質問は [名古屋市教育委員会 学校保健課\(電話052-972-3247\)](#)までお問い合わせ下さい。